



整備病床に係る実績報告について

- 1. 特例病床による病床整備について
- 2. 整備した病床の実績報告（令和6年度）
 - ・ 北中城若松病院（R4.7運用開始）
 - ・ 宜野湾記念病院（R5.4運用開始）
 - ・ 中部協同病院（R5.6運用開始）
 - ・ なかがみ西病院（R5.12運用開始）

令和7年3月
沖縄県 医療政策課

特例病床による病床整備について

経緯

- 病床の整備については、医療計画に定める基準病床数（全国統一の算定式により算定）を既存病床数が上回る場合、基本的には開設・増設を許可しないことが医療法に定められている。
- 第7次医療計画では基準病床数が既存病床数を超えているため、地域医療構想で示された回復期機能を持つ病床等、整備が必要なものについては厚生労働大臣へ協議し特例病床の適用により増床・病院開設の許可を行ってきた。
- 公募においては、地域の回復期機能を果たすことを増床・開設許可の基準としており、その実績報告を行うこととしている。

No.	圏域	医療法人名	医療機関名	配分病床数	運用開始時期
1	中部医療圏	医療法人アガペ会	北中城若松病院	26床	令和4年7月
2	中部医療圏	沖縄医療生活協同組合	中部協同病院	28床	令和5年4月
3	中部医療圏	医療法人緑水会	宜野湾記念病院	21床	令和5年6月
4	中部医療圏	社会医療法人敬愛会	なかがみ西病院	94床	令和5年12月
5	南部医療圏	社会医療法人友愛会	豊見城中央病院	80床	令和4年7月
6	南部医療圏	医療法人陽心会	メディカルプラザ大道中央	60床	令和6年4月
7	南部医療圏	医療法人はごろも会	那覇ゆい病院	19床	令和6年12月
8	南部医療圏	沖縄医療生活協同組合	とよみ生協病院	52床	令和6年11月
			合計	380床	

整備した病床の実績報告（令和6年度）

● 病床整備計画公募要領（令和3年9月22日付 保医第403号）に基づき、以下の項目について報告をいただいた。

1. 基本情報

2. 病床（棟）の状況

- (1) 公募により整備した病床数
- (2) 運用開始時期
- (3) 入院基本料
- (4) 現在の稼働病床数

●報告期間：令和6年9月10月
(2ヶ月間)

3. 入退院の状況

- (1) 入院の状況
- (2) 退院の状況（新規退院患者数）

- ① 述べ患者数（退院日除く）
- ② 新規入院患者数（実人数）
- ③ 救急搬送からの入院件数

- ・うち、医療機関（急性期）からの入院
- ・うち、自院急性期病棟から転棟受入
- ・うち、自院慢性期病棟から転棟受入
- ・うち、自院以外の慢性期病院からの受入
- ・うち、在宅（個人宅）患者の受入
- ・うち、在宅（有料老人ホーム、サ高住、グループホーム等の施設系）患者の受入（同一法人内）
- ・うち、在宅（有料老人ホーム、サ高住、グループホーム等の施設系）患者の受入（同一法人外）
- ・うち、介護老人保健施設、介護老人福祉施設からの患者の受入（同一法人内）
- ・うち、介護老人保健施設、介護老人福祉施設からの患者の受入（同一法人外）
- ・うち、介護保険外の施設（障がい者支援施設等）からの患者の受入

4. アウトカム指標

- (1) 病床稼働率
- (2) 平均在院日数
- (3) 在宅復帰率

5. その他、地域における「回復期機能」を果たすために積極的に行ってきた取組

6. その他、自院の圏域における病床機能の分化、連携についてのご意見等

実績報告のとりまとめ

令和3年度に中部圏域において整備した地域包括ケア病棟計169床について、令和6年9月～10月の2ヶ月間の診療実績を報告

- 2ヶ月間の入院患者延数は8,799人、1日当たり144人となっている。稼働率も全体で85%と、概ね圏域における医療提供体制の強化に寄与していると思料される。
- 新規入院患者数は316.4人、うち急性期病院からの受け入れは131.2名となっており、概ね4割がポストアキュート機能となっている。
- また、法人内に急性期病院等がある場合は（中南部ともに）系列病院から受け入れる傾向にある。
- 救急搬送件数の受け入れは（中南部ともに）少なく、今後、高齢者救急にどう対応していくかを検討していく必要がある。

北中城若松病院

病棟の状況

公募により整備した病床 (現在の稼働病床)	26床 (地ケア病棟51床)
運用開始時期	令和4年7月
入院基本料	地域包括ケア病棟入院料2

アウトカム指標

病床稼働率	77.0 %
平均在院日数	35.7 日
在宅復帰率	77.8 %

退院の状況

新規退院患者数	27.5人
うち、他病院への転院	2.0人
うち、その他	25.5人

※病棟実績を整備した病床数にて按分

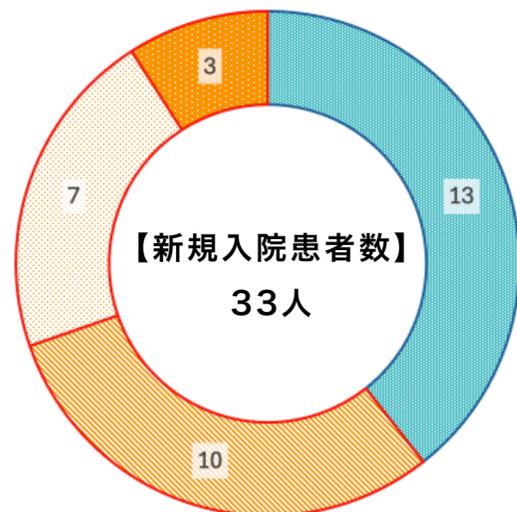
入院の状況

※病棟実績を整備した病床数にて按分

延べ患者数	1,220人
(1日あたり患者数)	20人
救急搬送受入	0人

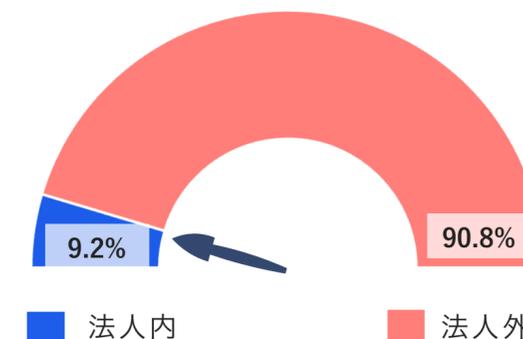
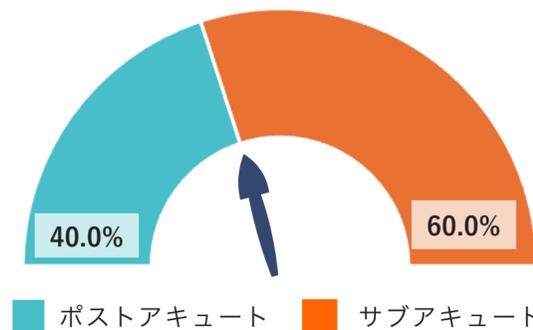
【入院経路】

- 急性期病院
- 自宅
- 施設(サ高住等)
- 施設(介護)



【急性期病院内訳】

県立中部病院	2.5人
中部徳洲会病院	8人
ハートライフ病院	2.5人



地域における「回復期機能」を果たすために行ってきた取り組み

- ・ 地ケアの機能や対象患者像、緊急入院含めた入院相談から受け入れまでのフローの説明が入ったパンフレットを作成
- ・ 連携先の居宅介護支援事業所を訪問し、診療報酬改定の概要について説明して回った(急性期・地ケア・下り搬送等)
- ・ 訪問診療専門をはじめとする地域のクリニックを訪問し、どのような患者が受け入れ可能か等地ケアのPRを行った
- ・ 連携のある有料老人ホーム等のニーズに応じ、専門NSを派遣し施設内での指導を行った(褥瘡予防等)
- ・ 沖縄県介護支援専門員協会中北支部にアプローチし、地ケアの説明を行いケアマネとの情報交換を行った

自圏域における機能分化・連携についての意見

- ・ OHBISの更なる活用が望まれる(急性期の現場で働いているMSWや退院支援NSまで周知されていない印象)

宜野湾記念病院

病棟の状況

公募により整備した病床 (現在の稼働病床)	21床
運用開始時期	令和5年4月
入院基本料	地域包括ケア病棟入院料1

アウトカム指標

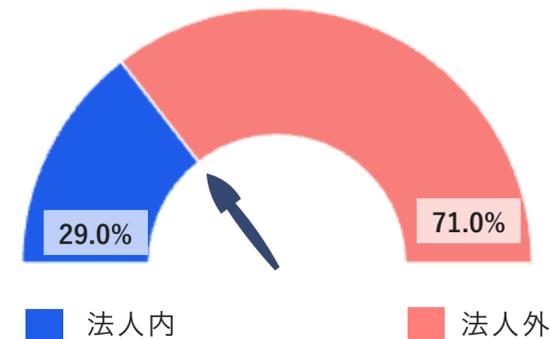
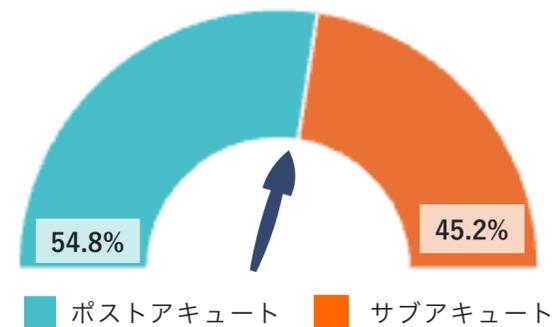
病床稼働率 **77.9** %

平均在院日数 **32.9** 日

在宅復帰率 **77.7** %

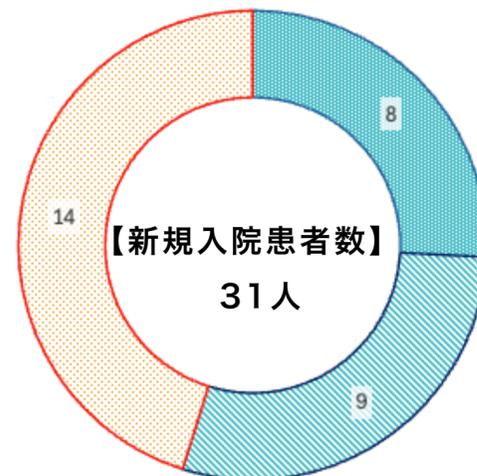
入院の状況

延べ患者数	998人
(1日あたり患者数)	16.36人
救急搬送受入	0人



【入院経路】

- 急性期病院
- 院内急性期からの転棟
- 自宅



【急性期病院内訳】

中頭病院	1人
ハートライフ病院	6人
その他急性期病院 (南部)	1人

退院の状況

新規退院患者数	27人
うち、他病院への転院	6人
うち、その他	21人

地域における「回復期機能」を果たすために行ってきた取り組み

- ・ 近隣の急性期病院からの紹介入院だけでなく、施設や自宅から発熱精査や手術適応のない整形疾患患者様の入院受入を積極的に実施している。
- ・ 今年10月に近隣の急性期やクリニック、施設関係者と地域医療医に関する懇親会を実施し、役割について意見交換を実施している。
- ・ 在宅支援病院として、毎月、連携クリニックとお互いの状況と連携について意見交換を実施している。

中部協同病院

病棟の状況

公募により整備した病床 (現在の稼働病床)	28床 (地ケア病棟142床)
運用開始時期	令和5年6月
入院基本料	地域包括ケア病棟入院料1

アウトカム指標

病床稼働率	88.4%
平均在院日数	33.5 日
在宅復帰率	82.1%

退院の状況

※病棟実績を整備した病床数にて按分

新規退院患者数	45.9人
うち、他病院への転院	7.3人
うち、その他	38.6人

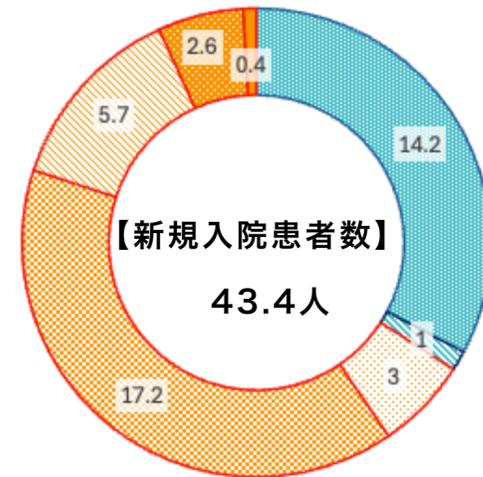
入院の状況

※病棟実績を整備した病床数にて按分

延べ患者数	1,509人
(1日あたり患者数)	24.74人
救急搬送受入	0人

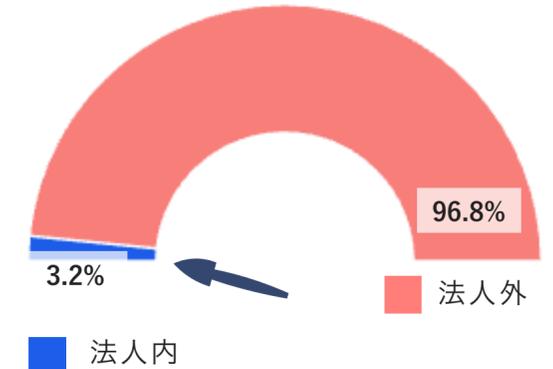
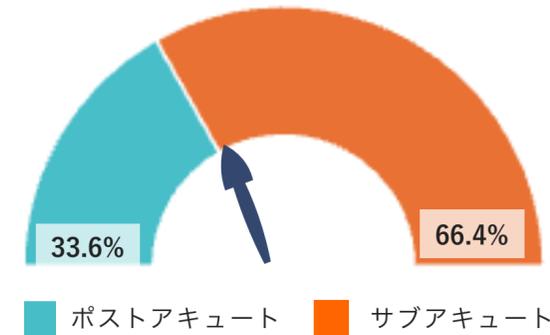
【入院経路】

- 急性期病院
- 院内からの転棟
- 慢性期病院
- 自宅
- 施設(サ高住等)
- 施設(介護)
- 施設(福祉)



【急性期病院内訳】

県立中部病院	6.1人
中頭病院	1.6人
中部徳洲会病院	6.5人



地域における「回復期機能」を果たすために行ってきた取り組み

- 積極的な受け入れ（急性期病院、介護保険施設、有料老人ホーム）を行った。在宅からの入院受け入れ、当院外来からの入院受け入れ等。地域からの社会的入院相談の対応を行った。独居世帯の患者の受け入れ。下り搬送の入院受け入れ。重症患者の急性期病院への転院調整。介護保険施設、有料老人ホーム等への退院調整。在宅への退院調整

なかがみ西病院

病棟の状況

公募により整備した病床 (現在の稼働病床)	94床
運用開始時期	令和5年12月
入院基本料	地域包括ケア病棟入院料1

アウトカム指標

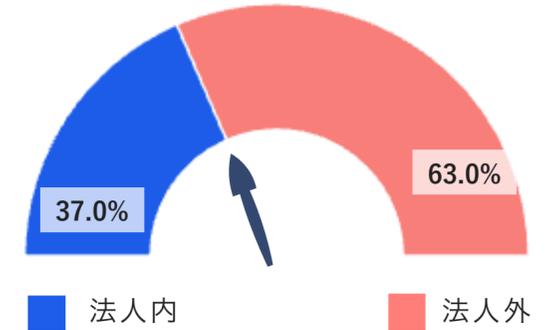
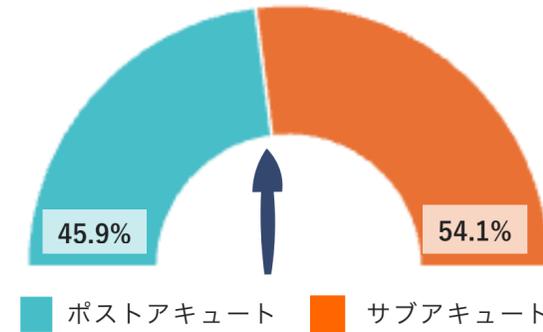
病床稼働率	88.5%
平均在院日数	23.0日
在宅復帰率	81.8%

退院の状況

新規退院患者数	214人
うち、他病院への転院	22人
うち、その他	192人

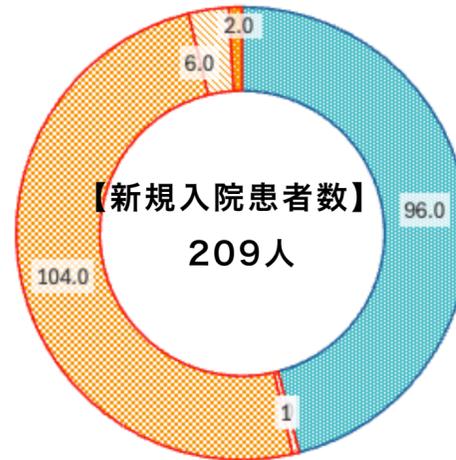
入院の状況

延べ患者数	5,072人
(1日あたり患者数)	83.14人
救急搬送受入	3人
うち、かかりつけ患者	3人
うち、初診患者	0人



【入院経路】

- 急性期病院
- 院内からの転棟
- 慢性期・精神病院
- 自宅
- 施設（サ高住等）
- 施設（介護）



【急性期病院内訳】

県立中部病院	16人
中頭病院	76人
中部徳洲会病院	2人
敬和医院	1人
翔南病院	1人

自圏域における機能分化・連携についての意見

- 急性期病院に限らず、地域包括ケア病棟入院料を算定している病院（中部協同病院など）との空床状況の共有や連携を強化し、地域全体の病床運用の最適化を図る必要がある。理由としては、機能が重複していることにより、一方が満床時には他方を勧めることができることで、患者に対し地域として入院支援できる体制づくり。
- 訪問看護ステーションや介護施設との連携を強化し、入院や退院後のフォローアップ体制を充実させることで、患者の生活の質を向上させる取り組みを推進できると考える。

地域における「回復期機能」を果たすために行ってきた取り組み

【地域との連携（顔の見える関係）】

近隣の急性期病院（沖縄県立中部病院、中部徳洲会病院）との連携強化を図り、入退院調整に関する協力体制を充実させた。具体的な取り組みとして、なかがみ西病院の三役（院長・看護部長・事務部長）が両病院を訪問し、開院のご挨拶を兼ねた面談を実施。その後、現場レベルでも『顔の見える関係』を構築するため、双方の主催する地域医療連携会議に参加し、両病院を訪問して具体的な患者像の共有を行った。

また、診療報酬改定後には、両病院から当院への訪問を受け、サブアキュートを含めた下り搬送の受け入れに関する協議を行った。

【情報の共有】

病床の有効活用を目的として、OHBISを活用し、法人外からの入院受け入れを積極的に実施した。退院後のかかりつけ医とも情報を共有し、継続的な医療提供に努めている。また、カスタマイズ依頼中（進行中）の患者情報共有ツールとして「おきなわ津梁ネットワーク」を活用し、患者のネットワーク同意を促進することで、関係機関との円滑な情報連携を密に行える仕組みを支援いただいている最中。

【地域包括ケア病院としての役割】

在宅復帰支援を目的とし、多職種連携によるカンファレンスを全患者に実施。地域包括ケアシステムの一環として、訪問診療や退院前訪問リハビリを積極的に提供し、在宅生活の継続を支援している。

また、在宅療養支援病院として、地域住民向けに健康講座やリハビリ教室を開催し、予防医療の推進に貢献している。

【入院前後の連携強化】

入院前に患者情報を適切に入手できる仕組みの構築を進めてもらっている。「おきなわ津梁ネットワーク」への加入促進だけでなく、各事業所が効果的に活用できる体制の整備が求められる。急性期病院側で急性期を過ぎた患者のリストアップを行い、回復期病院が受け入れの意思表示をするシステムの導入により、転院調整の業務効率化が期待される。



救急車



外来受診



急性期

継続性のある適切な医療を提供するために

医療機能の

『分担』と『専門化』

が進んでいます



早期離床を目的に治療

<救急救命・治療・手術>

- ・中頭病院 ・琉球大学病院
- ・沖縄県立中部病院 ・ハートライフ病院
- ・中部徳洲会病院 等々

状態が落ち着いたら

『転院』します



回復期



機能回復・ADL向上
在宅復帰を目的に治療

<リハビリ・生活支援>

- ・なかがみ西病院 ・敬和医院 ・翔南病院 ・ちゅうざん病院
- ・中部協同病院 ・与勝病院 ・北中城若松病院 ・海邦病院
- ・沖縄リハビリテーション病院 ・かなな病院 ・沖縄病院 等々

機能が回復したら

『退院』します



生活期



安定した生活

